

平成 30 年度

事業所名 : ik介護グループホームスマイル

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500064		
法人名	アントレーヴ株式会社		
事業所名	ik介護グループホームスマイル		
所在地	〒025-0314 岩手県花巻市二枚橋第5地割360番地1		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	令和元年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.pokensaku.nhl.w.go.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&f_yosyoCd=0390500064-00&PrEfCd=03&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域で当たり前の生活をしていただいていた方が、認知症を病んでも住み慣れた地域またはご親族や知人の近くで安心して日々を過ごしていただくことの支援をしていく事を目指しております。現在の入居者の介護度は介護1が1名、介護3が3名、介護5が5名です。開設11年目を向かえて内的環境・外的環境に変化があること、変化を受け入れ、業務改善の発想と、必要な福祉用具や設備の検討をしました。夜勤は二人の介護従事者で行い、ゆったりと過ごして安眠できるようにしています。又、日中は介護従事者を4~5人体制とし、調理を専任にしています。介護度は重度化していますが、全体の入居者の介護のバランスをとりケアプランに反映しています。毎月の業務改善会議では、さらに課題や改善策の見直しを行い、全員でアイデアを出す事を薦めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護職員を多く配置し、夜勤者も2人体制で見守り、看護師も正、準4名で入居者、家族の安心に繋がっている。家族とのやり取りは、細部にわたって話し合いが行われおり、家族からの信頼は強いものがある。面会者も多く来所し、周囲との連携を築く努力がされている。管理者の会話に流れる思いまでも探ろうとする姿勢は誰しもが好感を持てる。入居者との繋がりを大切に考えている、家庭的で穏やかなホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

平成 30 年度

事業所名 : ik介護グループホームスマイル

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の見える場所にリネンを掲げ、毎朝の朝礼で唱和しています。理念のもとに全社スローガン「あなたの笑顔が誰かの幸せの種になる」介護部門の目標「指名される事業所となる」～私たちの価値を高め、選ばれ、喜ばれるサービスを～を掲げています。	開設当初に掲げた理念をホールから見える職員室内に掲げ、当日のリーダー職員の音頭で全員が唱和している。毎年、全社スローガンとして介護部門の目標を掲げるとともに、全職員で作り上げた10項目の行動指針により、ケアの具体的な統一が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当施設は、市街地に立地し住宅地や商業施設から離れた場所に立地していますが、二枚橋自治会から毎年恒例の「秋の作品展」に作品を展示し、そ見物に外出、二枚橋子ども神輿の訪問を受けるなどしています。	運営推進委員のメンバーである民生児童委員から地域の情報や自治会の作品展、子ども神輿の案内がある。隣接するデイサービスに幼稚園・小学校の子ども達が訪問した際は一緒に交流し、また中学校の職場体験の場とするなど、地域との接点を持つ努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も継続して開催されている認知症「スマイルカフェ」を通じ、地域の方に認知症の理解や支援の方法を発信しています。この活動は平成28年から継続しています。開催場所は施設のリビングとし介護や認知症に関連するテーマを設け紹介しています。手芸や園芸などの手作業とコラボレーションすることで参加しやすい工夫をしています。毎回のように入居者が参加します。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間を通じ偶数月に開催し、入居者代表、入居者家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員、取締役、管理者が参加します。日々の活動内容や事故報告、感染症対策などの内容となっております。	委員のうち、2名の民生児童委員は地域に精通し、様々な情報を提供頂くなど、双方向的な会議として運営されている。メンバー以外でゲストとして、その時々テーマに即した関係者を招いているが、今年度は日程の都合上実現していない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	花巻市主催の「在宅生活を支える多職種が集う会」には継続的に参加し、今後の行政機関の情報を得ています。	運営推進会議に市担当課職員も参加し、利用者や実践内容を理解して頂いている。職員が参加している行政主催のワークショップ形式の会議は、情報交換等の機会になっている。花巻版ワムネットに今年度登録し、連携を更に深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所及び管理者は、身体拘束ゼロを継続するケアの実践につとめています。入居時などに家族にも拘束をしないことを説明し理解を得ています。玄関の施錠は一般家庭と同様に夜間だけとしています。身体拘束廃止委員会の定期開催、研修を実施しています。	「身体拘束適正化のための指針」を定め、ホールに掲示している。委員会は業務改善会議と併せて3か月に1回開催され、スピーチロックなどをテーマに研修を企画している。日中は、玄関やデイサービスセンターに通じるドアの施錠はせず、自由に出入りできる。ご家族には、入居時に重要事項説明書で身体拘束に関して説明をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が外部研修に参加し、その内容を職員会議などで周知しています。「原因不明の皮下出血(あざ)皮むけ」が発生した場合は、発見者が「ヒヤリはっと報告」用紙に記載し共有します。また、ミニカンファレンスで討議し、その再発に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などで、制度の仕組みとその活用について学んでいます。事業所窓口には、花巻市監修の「認知症になってもあんしん」のリーフレットを置き閲覧できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は家族の状況に合わせて説明し理解に努めています。質問には明瞭に返答しています。また内容に変更があった時には、文書により速やかに案内し同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱」を設置しています。ご利用者アンケートの実施では集計結果と意見に対する対応をしめし、安心したサービスを継続できるように配慮します。	家族の面会が多くあり、面会時に伺ったお話しを「相談・支援記録表」に書きとめ、管理者を中心に言葉の端々からも家族の思い等を読みとるよう努めており、意見や苦情を傾聴する機会となっている。事業所独自の家族アンケートも実施している。	人と人との関りを大切にする姿勢、その実践は称賛されてしかるべきものです。職員全員の英知を集め、より一層の高みを目指されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の業務改善会議にて管理者参加の元、職員からの業務改善や行事实施のプランなどについて意見交換を行ない、決定～実施しています。会議の参加できない職員の意見も事前に提出してもらうなど、職員の総意が反映出来る工夫をしています。必要に応じて取締役役も業務改善会議に参加するほか、年1回の個別面談時に運営や労働環境の改善案を直接聞く機会を設けています。	月例の業務改善会議の担当プランナーが、事前に職員提案を吸い上げ議題としている。洗濯方法、物品購入、日勤と夜勤の業務役割分担等の具体的な提案があり、運営に取り入れている。年1回の個別面談があり、全職員から意見や提案を聞く機会とし、すぐ出来ること・検討すること・見送ることに分けて、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回(9から10月)に、取締役が全職員と個別面談を行い、今後のキャリアアップに向けた相談や課題の抽出を行うとともに、個別の健康状態や家庭事情などにも配慮した契約条件の確認を行っています。管理者は上記事情や個別の理由に配慮した柔軟なシフト作成をおこない勤務しやすい環境作りに努めています。平成30年処遇改善では、夜勤者の待遇を強化しました。又、業務時間帯の見直しを行い、現状に即した賃金体系としました。職員の補充が間に合わず、在籍職員への負担が増加していることが課題です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平成30年4月1日より、事業所内職業能力開発計画を定め、体系的な人材育成をおこなっています。法人内研修では、介護部門職員全体研修「スマイル研修」を有給で実施。全職員が受講できるように、6回に分散し実施しました。又、今年度より身体拘束廃止の取り組みとして委員会を設け理解を深めています。週2回のミニカンファレンスや業務検討会議でのケアの見直し等、日常的な○JTを行ってます。新人採用時には、チェックリストに沿って指導漏れのないよう配慮しています。外部研修については、関係団体からの案内を職員に周知し参加を募っています。面談などで把握しているキャリアアップの繋がるものや、専門職の研修については個別にも受講を勧めて紹介し内容に応じ有給研修・参加費補助など参加しやすい環境を作っています。特に認知症実践者研修、リーダー研修については年1名ずつ受講できるように配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取締役・管理者・ケアマネジャーは岩手県グループホーム協会花北支部、花巻市地域ケア会議、西地域につながる会議などに参加し、勉強・意見交換や情報交換を行っております。依頼があれば交換研修や資格取得の為の実習生を受け入れてます。市内4箇所にある認知症カフェを行って事業所とは、相互の見学や情報交換を行うほか花巻市の主催する「認知症セミナー」のパネル展示や運営に協力しています。又認知症キャラバンメイトとして、しや地域包括支援センターなどと協力し地域貢献をおこなっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者やケアマネジャーが入居直前の訪問の時に、入居予定者や家族の様子を把握している。入居当日までに職員に情報伝達し、全員で受け入れるようにして関係作りをスタートします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後も家族が大切に考えている想いに傾聴し暫定ケアプランの説明と同意を得ています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅介護において、利用していたサービスへの想いを受け入れ、継続して実現可能な方法を一緒に考えていきます。入居後も利用可能な医療・介護サービスは必要に応じて説明します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スマイルの暮らしに馴染んだ頃を見極めて、スマイルでの役割や、他の入居者との関係を調整していきます。女性入居者は食材の盛り付け・洗濯ものをたたむなど、男性は床のモップかけを職員と一緒にするなどしています。入居後に新しい役割が生まれることも想定しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	暮らしの空間が変わっても家族との関係は永遠のものと捉えています。離れて暮らしている家族へ日々の暮らしの様子を面会時や電話で伝えています。面会場所は制限せずに居室、リビングなどを自由に使っていただきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	契約代行家族からの禁止事項以外は面会や電話を拒みません。入居者本人からの電話の求めにも応じています。隣接のデイサービスへ家族が来たときに面会の機会を作っています。	事業所では、馴染みの人を家族・兄弟・友人等と捉え、また自宅や行きつけのスーパーに通院後に立ち寄りたり、ドライブで車窓から「花巻まつり」を見学している。昔の同僚の訪問もあり、地元の病院への通院が知人と会う機会にもなっている。夕涼み会には、全利用者家族の参加があり、つながりを継続できる支援にもなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知障害の症状は様々ですが、入居者同士が仲良く穏やかに生活が継続できるように、必要に応じて介入や調整をします。入居後に仲良くなり寝起きの時間を共にする方々も生まれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入居するために退去が決定された方がおりました。今後も、ご相談がありましたら対応可能であることを、お伝えしました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミニカンファレンスなどで、情報を共有し、思いや暮らし方の希望を尊重するように努めています。重度化した場合でも職員の手間の段取りや困難であることを優先した介護側の理由を優先しないで、本人が困っていることに目を向けてプランを検討します。	思いや意向を伝えられる利用者は4名いる。希望や意向の把握が困難な利用者については、日常接しているスタッフや家族からの情報を聴き取り、日々の行動や表情から思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報把握で家族や本人・ケアマネジャーから聞き取りを行い、必要な情報を得ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録用紙の『一日の様子』欄に、本人の具体的な表情・行動・会話内容などを記録して現状の把握や病態の変化の予測に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの立案、見直しで本人や家族の意向を確認し、週2回のミニカンファレンスで全項目を討議し介護計画に反映しています。決定した介護計画は職員目の留まるように、オリジナルの記録用紙に併記し記載しております。	火曜と金曜日の8時30分から15分程度のミニカンファレンスを行い、介護計画の実施状況等をオリジナルの記録表を用いて確認している。本人や家族の意向を把握するため、全員から意見を求め、参加できない職員から事前に意見を徴している。家族からは、通院で来所した際に希望などを聴いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの記録用紙は2種類のオリジナル用紙があり、「介護記録」と「計画内容・情報その他」です。面会時に家族が閲覧しやすい場所に備え、閲覧後にサインをいただきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	花巻のローカル新聞を購読し、その記事の中から地域の催事などをお伝えしています。私立図書館の移動図書『ぎんが号』利用を定期的に利用し日々の生活の中で愛読していただく機会を持っています。隣接するデイサービスにボランティアの訪問があるときには、同席して見物する事もあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	誕生会には地元のケーキ店に注文したり、近所のスーパーから毎日の食材を仕入れるなどしています。近所のコンビニには災害時の協力を頂いております。(防災訓練を含む)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急受診以外はかかりつけ医への受診は家族の協力をいただいております。今年度あらたに「診察用の情報提供書」を作成し、必要な方には持参していただき、医師からの指示などを頂いております。	利用者は、入居前のかかりつけ医に通院している。必要な利用者には、医療機関からの連絡欄も設けた、気になる点などを記載した「情報提供用紙」をご家族へ提供している。通院後には、ご家族から診察時の様子を伺うなど、家族や医療機関との関係を密にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が日勤や夜勤に複数従事しており、協力体制となっております。緊急受診には看護師が付き添い入居者や家族の支援体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入院先の医療連携室や相談員、担当看護師と情報の問い合わせに応じて相互の連携に努めています。また、必要な治療が終了し退院許可がおりた場合には速やかに、退院できるように配慮しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化および看取りに関する指針」が策定されており、職員は共有し理解に努めてます。入居時には家族に「双方で相談の上で看取りが可能である」ことを説明します。かかりつけ医師との関係に熟慮し話し合いを進めて納得されたうえで方針を定め、支援しています。	入居時に「重度化及び看取りに関する指針」を家族へ説明している。事業所開設以来4件の看取り経験があり、現在、半数程度の利用者家族は看取りを希望している。経口摂取状況や通院間隔に応じ、最終的には、家族の看取りの意思を確認しながら、医師の指示に沿って取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には24時間体制で管理者に連絡し対応します。心配蘇生法の訓練やAED訓練を実施しております。AEDはグループホーム内に配置されてます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定非難訓練の実施や消防署の指導により初期消火・非難訓練を実施しております。特に新入職員の参加を促進しています。訓練では職員の他に近隣コンビニ社員・民生委員・セコムも参加しています。今年度、緊急時マニュアルを、実際の行動を起こしやすいように精度を高めて更新しました。	居室に防火頭巾を備えている。薄暮の時間帯に夜間を想定した車椅子を使用する避難訓練を実施している。行政のハザードマップでは、水害や土砂崩れの地域外ではあるが、近くに川があり、独自の地震、水害、火災のマニュアルが整備されている。行政指定の避難場所を安全委員会で調査して課題の検討を行うなど、具体的体制の整備に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スマイル理念の「あなたを大切に」を追求し高齢者に敬意を持ち介護実践に努めてます。病前の生活歴を十分に把握し尊重し、利用者には苗字または名前で呼称します。認知症の症状により生活に乱れが生じたり人間関係にゆがみがでた場合には、その方の尊厳を保つことができるように対応します。	トイレ扉は利用時に閉まることで利用状況を把握でき、お風呂ではタオルを体にのせて露出を最小限にする配慮がなされている。年長者として敬意を払い、利用者をさん付けで呼び、グループホームスマイルの理念である「あなた」を大切ににする介護の実践が行われ、利用者の人格と尊厳を守る取り組みに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	病気が進行した場合でも本人の意思を引き出す努力と支援を継続します。自己決定された内容を家族と共有します。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課や行事がありますが、その方の希望や状況に応じて柔軟に対応します。たとえば入浴時間、食事時間も柔軟に変化を受け入れてます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症の方はセルフケアが困難になることがしばしば見受けられますが、事前に家族から髪型や身だしなみについて希望を聞き取り対応します。理容はホーム内で有償ボランティアが引き受けて下さってます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は季節を感じて楽しくて美味しい工夫を、食材は地元野菜やお米を取り入れ、季節の旬の野菜を実際に手にとって頂くなどしています。食形態は常食・軟菜・きざみ食・ミキサー食などに対応します。今後ソフト食を検討していきます。お盆拭き、メニュー書き、盛り付けなどは日常的に実施しています。干し柿づくり、おやつレクリエーションなどを取り入れてます。	献立は代表者が1か月分を作成している。頂き物や季節の食材の差し入れがあればメニューを変更する。おせち料理は、ミキサー食等の方にソフト食で提供する検討を行っている。父の日はノンアルコールビール、ひな祭りは和菓子と抹茶が振る舞われ、おやつレクリエーションは、一口サイズの食パンに好みのジャム等を自分で塗って食べるなど、食欲がわくよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定や腹囲測定結果を参考に栄養摂取状態の目安とします。飲み物は麦茶・煎茶・スポーツ飲料(入浴後)・コーヒー・紅茶・カルピスを常備紙片かを持たせています。水分摂取量の少ない方は記録に特記し介護者が意識的にかかります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の状態に合わせて歯ブラシ・スポンジブラシ・口腔用ガーゼを使い分け、洗面台と鏡の前で毎食後に口腔ケアを実践しています。入れ歯は毎晩洗浄し消毒しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の移動能力と心身の状態、排泄パターンを把握し、日中は可能な限りトイレ移動し便座にすわります。腹圧がかかることで排泄を促進できます。	リハビリパンツと尿取りパッドを使用しているが、5名は日中トイレ利用者である。夜間のポータブルトイレ利用者はなく、トイレでの排泄を大切にしながら、吸収量の多い尿取りパッドやおむつを使用し、睡眠に重きを置いた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬物療法や運動能力の低下などで便秘になる方も多いため食物繊維を取り入れたり、飲み物を変化させています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	『ソファークラス』の導入により、特浴対応の方もユニット内の『ソファークラス』で入浴が可能です。介護従事者の身体的な負担軽減になっています。基本的には週3回の入浴ですが体調などにあわせて変化します。今年度は立位が困難な方の浴室移動軽減に浴室用車いすを導入し浴室での事故防止になっています。	月・水・金曜日の午前中と午後の時間帯に入浴している。ソファークラスの導入により車いす対応の方も、週3回、30分程の入浴が可能となっている。異性介助を拒否する方もなく、入浴を渋る方には時間帯をずらして対応している。柚子湯や菖蒲湯など季節を楽しむ入浴を工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動性を促進し、夜間は自然に安心して入眠できるように照明や飲み物を工夫します。手足が冷たい方には手のマッサージ、足浴をして手足を暖めます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の扱いは特に注意して看護師が管理し介護従事者が名前を二度確認して与薬します。薬物療法が中断しないように、家族と連絡を取ります。合併症により多種の薬が必要な方(飲み薬・張り薬・塗り薬・食前薬・食間薬・食後薬など)は特記をして誤薬のないように注意します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や得意なこと、趣味を把握して生活に取り入れたり話題を作ります。認知症を病んでも、穏やかに安心して暮らさることができるを目指しています。職員は笑顔で介護に従事するように意識しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ホームの立地は住宅地ではないので気軽に散歩はできませんが、併設するデイサービスの箱庭に出てみたり、ビングの窓下に小さい花壇に沢山の花々を植えて楽しんでいます。ハルは花巻温泉や市内に外出、夏は花巻祭りの山車見物、昭は広域公園に紅葉狩り、初春はつるし雛見物に出かけます。家族が外出に同行するようお誘いしています。	ご家族と外出される利用者は2名いる。デイサービスにある箱庭や、本社道路脇にある薔薇の花壇を眺めるため、車いすで外にでる時間を設けている。天候が良いときは、外のベンチで日向ぼっこするなど、五感を刺激する機会として日々取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出しスーパーに出かけるときにはお財布を持ち買い物します。日ごろの話題として市内の買い物スポットを入居者から情報を得ることがあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の親族から電話をいただくことがあります。ホームの携帯電話にかけて頂き移動が困難な入居者と会話ができるようにします。家族に電話をかけなくなったときには応じています。希望者には年賀状を一緒に作成して、入居者にかいて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造の建物で天井も高く、天窓や窓から自然の光が東から西へと移動します。床暖房で室内の空気を汚染しません。年間を通じて喚起をし、空気をきれいに保ちます。リビングや個室にはそれぞれ寒暖計を用いて、それぞれの環境に合わせて室温を調整します。基本的にはリビングの装飾が華美にならず高齢者が穏やかに過ごすように考えています。	天井が高く自然光を取り込む明るいホールである。床暖房、大型のエアコンで室内は快適な温度に保たれている。日中はテレビを囲むようにソファが配置され、利用者がゆったりと寛げる場となっている。廊下には、行事等の写真や、職員と一緒に制作した干支のちぎり絵が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中のほとんどをリビングで過ごしますので、座る場所やテーブルを共用する人選を検討します。ご本人の希望も取り入れながら、必要に応じて席を替えたりします。リビングにはテレビの前に3人掛けのソファを2脚置いています。利用者全体を考え、一時的な車いすの保管場所、歩行や移動の導線を配慮して模様替えを行います。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の備品は、介護用電動ベッド・小型テレビ・籐椅子・小テーブル・エアコン・クローゼットなどがあります。入居時から自宅から家具の持ち込みを推奨しています。また、面会者の持ち込みのプレゼントなどを飾りつけるようにします。	施設内は全館床暖房であり、居室には、大収納のクローゼット、小型テレビ、エアコン、電動ベッド、籐椅子、一人用机、寒暖計が備え付けられている。大型テレビ、タンス、姫鏡台、人形、家族写真等が持ち込まれ、誕生日プレゼントも居室内に飾られ、温かい雰囲気を出す工夫が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	木造で段差の無い作りです。トイレも広く作られており、職員が毎朝清掃しているので清潔で安心してすごせるようにしています。全失聴の方には書字で表現し伝わるように、高齢者の視力低下を配慮して夜間の照明を工夫します。		